



浜ノ瀬ダム

ご存知ですか？ 私たちが喜ぶ西諸の田畑には十分な水が足りていないこと。たくさんの人たちが、水不足で苦勞している現実があります。今年3月、長い年月と思いが込められた「浜ノ瀬ダム」が完成しました。「ダム」がこれからの西諸の農業を大きく変えていきます。

特集

それは、新たな農業開拓への第一歩

天候などに左右され安定しない農業

西諸地域は、九州山地や霧島山麓に囲まれた農業地帯で、火山灰によるシラス台地が広がっています。降水量は全国で見ても多い地域ですが、水はけのよい土壌の性質から、水の保持力には乏しく、田畑の水が不足することもあります。

す。天候や季節に左右され、作物の植え付け時期や収穫時期が偏ることもあり、安定した収益を得ることが難しいのがこの地域の農業の実情です。

利便性を図るため建設された「浜ノ瀬ダム」

平成29年3月に完成した「浜ノ瀬ダム」。雨に頼るだ

けでなく、安定して水を使うために建設されました。昭和31年、農林省熊本農地事務局（当時）により国営の畑かんがい事業の計画地区となるかどうかの調査が行われ、昭和32年、国営の直轄計画地区に認定されました。事業の対象となる田畑の面積の調査を進め、昭和62年、西諸地区農業水利総合開発事業促進協

議会が設立。受益地（水が供給される土地）の所有者などから同意書を徴集し、平成8年、国にダム建設の施行申請を行いました。平成20年には、水の供給が始まった後のダムや水路の管理を行う団体を設立するため、準備委員会が発足。受益者から委員26人が選ばれ、運営方法などを審議し、平成25年に「西諸土

地改良区」が設立されました。ダム建設計画が始まってから約60年。長い年月をかけて、西諸地域の農業発展への願いが託されたダムが完成しました。

今月号では、ダム完成を通して、農業がどのように変わっていくのか、西諸地域の未来を考えていきます。



インタビュー ～ダム建設当初から携わった2人に聞きました～



西諸土地改良区理事長
兼野尻原改良区理事長
井手 敦巳さん

ダム建設当時から携わり、現在は新たな使命を達成するために頑張っています。

設立準備委員会の委員となったことがきっかけで、現在、西諸土地改良区の理事長を務めています。この改良区は、浜ノ瀬ダムができて、畑地かんがい事業が進む中での農家の受け皿となるために設立されました。私たちの使命は、農家がいつでも水を使える状態にすることです。ダムの水をみんなで分け合って、雨水などの恵みとともに有効に活用していくことが大切です。農家が天候に左右されずに作りたいものを作り、質の良い作物を収穫できるように状態を作るため、西諸土地改良区一丸となって取り組んでいきます。



国営事業申請人代表
川崎 明さん

自分も農業を営む者として、思いを込めたダムがやっと完成しました

私は、国営かんがい排水事業西諸地区の申請人代表を務めました。西諸土地改良区設立準備委員会が発足した際には、審議内容をまとめる委員長も務めさせていただきました。住む地域は一緒でも、地区や営む農業の種類で考え方が異なるため、意見をまとめるのはとても大変な作業でした。しかし、全員が安定した水の供給ができるこの事業に一所懸命意見を出し合い、自分たちの次の世代のことまで考え抜いたことが現在につながっているのだと思います。農業発展には後継者不足などのさまざまな課題がありますが、ダムの活用がその一助になればと願っています。

「安定して水を使えたら」。浜ノ瀬ダムに未来を託す。西諸地域の農業が変わる。

ダムから水を田畑に通水することで、新たな農業の営み方が見えてきます。

ダムから一部の地区へ供給が始まりました

「浜ノ瀬ダム」は、西諸地域の畑地と水田に水を送るため、須木鳥田町地区などに流れる大淀川水系岩瀬川に建設されました。

今年4月、ダムから一部の地区へ水の供給を開始。

水は水路を流れて、ファームポンド（貯水槽）に溜められます。そこからさらに水路を通じて田畑に水が流れる仕組みです。

ファームポンドは25ヶ所建設予定で、現在は18ヶ所が完成しています。

また、ダムより高いところに畑がある場合は、高台へ水を送るためのポンプの

役割を果たす揚水機場を使って水を送ります。

盆地で高低差のある西諸地域では9ヶ所の揚水機場が建設される予定で、現在1ヶ所が完成しています。（9ページの図を参照。）

ダムを効率よく管理し水力発電も有効活用

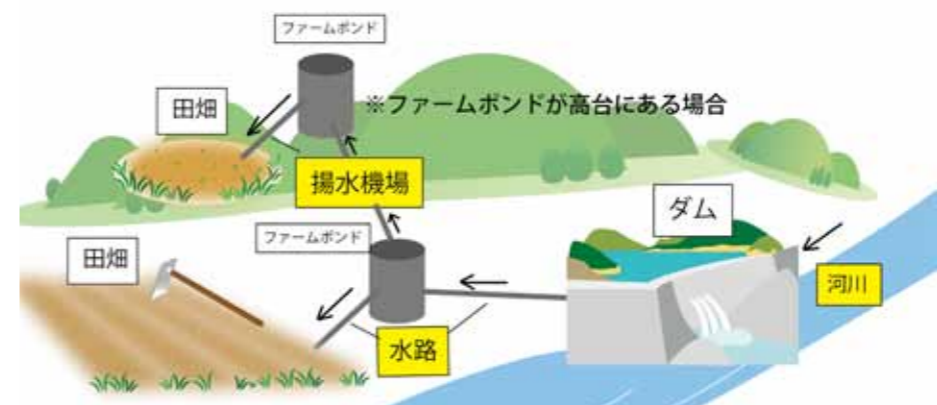
ダムや用水路は効率性や安全面を確保するため、西諸土地改良区が監視を行っています。ここでは、ダムの水位や田畑に供給した水の量などを一定時間ごとに記録し、監視しています。また、ダムに貯水した水を使って、水力発電も行うっており、利益をダムの運営などに充てています。

農業の営み方が大きく変わることを期待

ダムの完成により、これまでの農業の営みが大きく変わることが期待されています。

例えば、年間を通して安定的に水が使えることで、天候に左右されずに植え付けの時期などを調整することができたり、水がたくさん必要な作物などを作ることができま

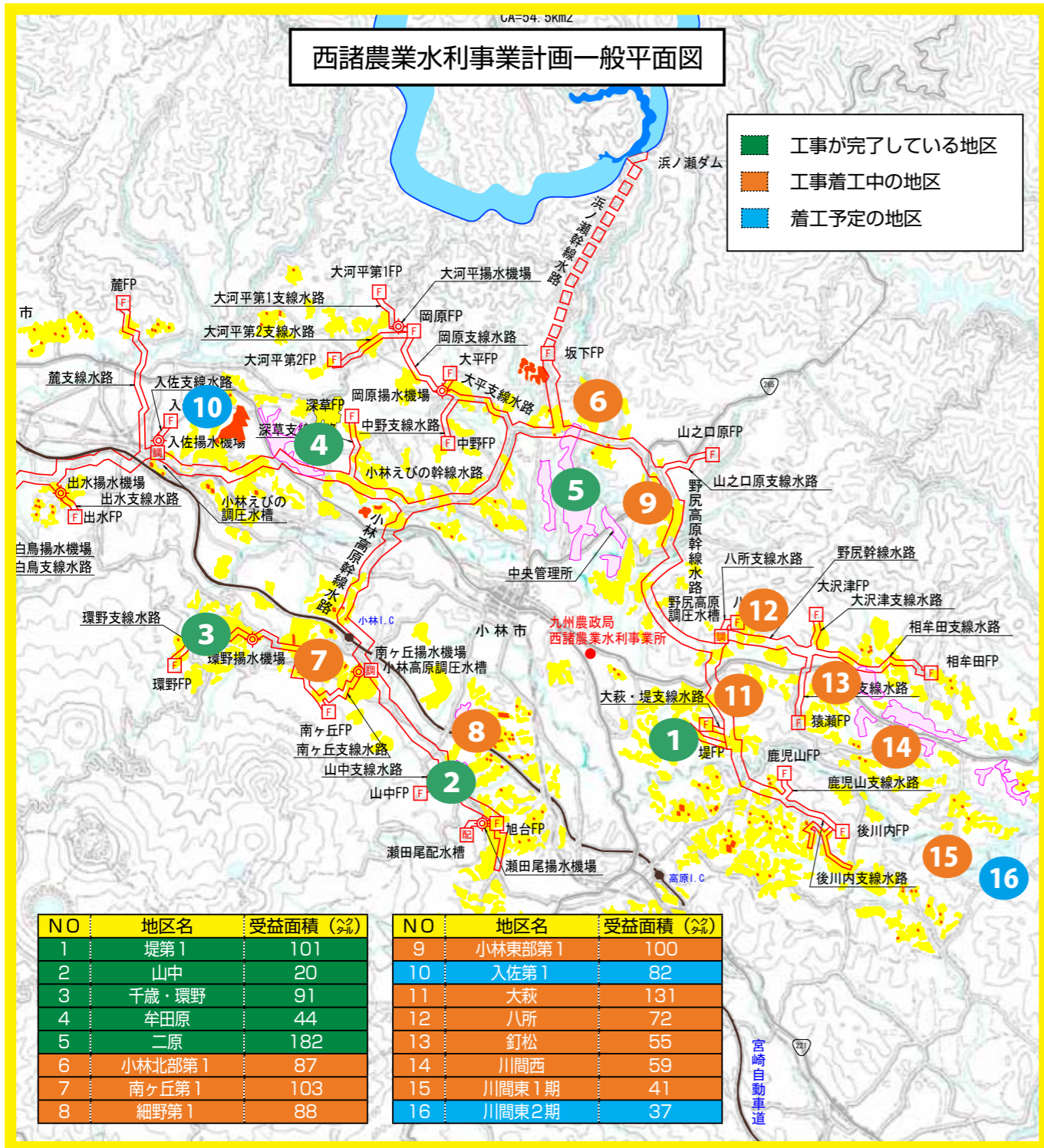
す。また、かん水用の水の調達に費やしていた時間や身体的な労力も減らすことができるため、農家の負担軽減にもつながります。



ダムから田畑までの通水イメージ



左) 平成22年に開催されたダムの定礎式。写真左は当時の西諸畑かん事務局長で、表紙の「水は宝 西諸の畑に 生農地の水を」をスローガンに掲げ、この事業を牽引した永山幸男さん。



担当課に聞きました。

ダムの水を使うことでどんなメリットがあるのか、使用料はどのようになるのかなど、さまざまな疑問にお答えします。



小林市役所 農業振興課 **永田 勉** 課長

ダムから水が供用されることで、どんなメリットがありますか？

水は、作物を作るうえで必ず必要なものです。時期に左右されず畑に安定した水が供給されるかは、作物や収量、収益に大きな影響を及ぼします。特に、ビニールハウス栽培によるマングロープやメロン、ブドウ、梨などの作物は、直接雨による水の恵みを受けないため、かん水作業や水の確保が必要になります。ダムから供給される水を使うと、ファームポンドから直接畑に水を引くことができるため、使いたいときに使いたい量を利用できます。そうすることで、作物の品質や収量が安定し、水を多く必要とする作物も作れるようになりますし、栽培時期や収穫時期を調整することもできます。また、地元で作られる野菜や果樹などを食べられる時期が広がったり、高品質な作物を食べることができるようになります。

ダムの水を使うと使用料は発生しますか？

使用料が必要になります。料金は使った水の量ではなく耕作種別と面積によって決められています。例えば、お茶畑、ビニールハウス栽培、普通畑などに分かれています。水が供給される地区は決まっていますか？

水を使うときは、何か必要なものがありますか？

水を使う際は、配管工事などに着手する段階から水を出す給水栓の位置を決めたり散水器具などを準備する必要があります。

担当課よりメッセージ

水を使って新たな作物や営農に挑戦してください

栽培する作物や時期、畑の形状や面積などで異なりますが、散水器具の例としてスプリンクラーを取り付ける場合もあります。スプリンクラーには液肥混入機がついている物もあり、水をかけるのと同時に肥料も与えることができます。ダムの水を使うことによるメリットを活かして、自分のスタイルに合った営農計画を立て、高収益作物の生産を行うなどの新たなことに挑戦していただきたいと考えています。水の供給が始まる地域には事前に通知を行い、配管や給水栓の設置場所などを一緒に検討していきますので、ぜひ、活用ください。詳しくは、農業振興課までお問い合わせください。●問〓農業振興課 畑地かんがい推進グループ Tel. 23・0333



上) ファームポンドから水を流すためのパイプ。左) スプリンクラーで3日に1回水を撒いています

の事業が始まるまでは、近くの川から水を桶に入れて担いで持ってきていました。本当に辛い作業でした。今では、蛇口をひねれば水が出るため、使いたいときに十分な量を使えています。おかげで、収穫量も品質も大幅に良くなったと感じています。



坂下地区観光農園 (永迫梨園) **永迫 一治さん**

私が住む坂下地区は、5年ほど前に畑地かんがい事業でファームポンドが建てられ、水を使うことができました。果樹園なので、ビニールハウス内で作っていますが、露地栽培よりはるかに水が必要になります。農業を営んで50年以上になりますが、こ

作物の品質や収量が大幅に良くなりました